

# 彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, June 2012

課長：佐藤 裕久 *H. Sato*

幹事：下元 繁男 *S. Shimomoto*

## ○ 6月の状況 (佐藤)

☆ P/2006 Y2 = 2012 K9 (Gibbs)

彗星課メーリングリスト (oaa-comet ML、以下同じ。)等に寄せられた報告は次のとおり。

6月15日 15:56、佐藤英貴氏(東京都大田区)から「P/2006 Y2 (Gibbs)は西に低い難物ですが、昨月から狙い続けていました。薄明中の低空で、露出時間が稼ぐことができず、イメージも弱いため、なかなか自信を持っていませんでしたが、4夜の観測のため、まず間違いはないだろうと考えて報告しました。条件が良ければ明るくなりますが、今回帰は西空にへばりついており、今後も沈む一方です」とのコメントと位置観測報告があった。

16日 00:21、筆者から、「P/2006 Y2の検出おめでとうございます。まず、間違いありません」とのコメントと連結軌道を報告した。

彗星年表 2012の予報に対するDelta Tは+0.049 Dayであった。

同日 04:38、筆者から、「CBET 3142が発行され検出が認められましたね。改めておめでとうございます」とコメントした。

同日 08:52、遊佐徹氏(宮城県大崎市)から「CBET 拝見しました。P/2006 Y2 = 2012 K9 (Gibbs)の検出、おめでとうございます！またまた、すばらしい快挙ですね」との祝意があった。

☆ P/2003 02 = 2012 M1 (LINEAR)

22日 06:08、筆者から「P/2003 02 (LINEAR)が佐藤英貴さんによって検出されました。佐藤英貴さん、検出おめでとうございます」とのコメントと連結軌道を報告した。

同日 04:07着のCBET 3153には、佐藤英貴氏がRAS天文台(Mayhill近郊、ニューメキシコ州)の0.51-m f/6.8アストログラフ、f/4.5レデューサー付の遠隔操作による60秒露出10-12枚のスタック画像からP/2003 02 (LINEAR)を検出した。6月18日は10"のコマがあり、6月20日は8"のコマがあり尾はなかった。Vバンド全光度は円形開口半径4".9の中で18日19.3等、20日19.4等と測定されたことが報じられた。

G. V. Williamsが得た連結軌道は、2011/2012 ICQ Comet Handbookの中野主一氏の予報に対し、Delta(T)は、+0.11 dayであった。

24日 21:51、遊佐徹氏から「佐藤英貴さん、相次ぐ周期彗星検出の快挙、おめでとうございます。破竹の勢い、凄いですね！」との祝意とともに185P/Petrewの画像と位置観測の報告があった。

☆ C/2012 L1 & C/2012 L2 (LINEAR)

5日 21:19、佐藤英貴氏から「最近発見される彗星が多いです。今度はLINEARによる発見です。ともに北空明け方ですね」とNEOCP CD07546とCD07547が彗星らしいとの情報と位置観測報告があった。

同日 21:38、筆者から NEOCP CD07546 と CD07547 の放物線軌道要素を報告した。

6日 03:34 着の CBET 3134 に、C/2012 L1 (LINEAR)が、6月 1.33日 UT、LINEAR サーベイによって 19.0 等の外見上の小惑星状天体が発見され、小惑星センターの NEOCP webpage に公表後、S. Gajdos と J. Vilagi (Modra, スロバキア; 0.6-m f/5.5 反射と推定; 6月 2.9日 UT、最大 7" の集光あるコマがあり、p. a. 210° に細長く、同じ位置角に 40" の尾がある) や佐藤英貴氏ら位置観測者によって彗星状として観測されたことが発表された。

同日 04:28 着の CBET 3135 に、C/2012 L2 (LINEAR)が6月 1.37日 UT、LINEAR サーベイによって 19.4 等の外見上の小惑星状天体が発見され、小惑星センターの NEOCP webpage に公表後、R. Holmes (Ashmore, イリノイ州, 0.81-m f/4 アストログラフ、測定:T. Vorobjov, L. Buzzi と S. Foglia: 6月 3.3日 UT、スタック画像から拡散した 10" のコマと p. a. 270° に尾の気配がある) や佐藤英貴氏ら位置観測者によって彗星状として観測されたことが発表された。

☆ C/2011 L4 (PANSTARRS) (写真 a)

24日 19:27、関勉 OAA 会長から「約一ヶ月ぶりに観測しました。梅雨の最中6月 22日夕刻の撮影です。確かに明るくなるはずですが、今回の全光度は 13.0 等と見ました。拡大してみると尾を引いた雄大な彗星の卵のように貫禄があります。尾はやや北西に向っています。…」とのコメントと画像紹介があった。

同日 21:51、遊佐徹氏から「大崎の遊佐です。今日も米国のメイヒルで C/2011 L4 を観測しました。よく集光していて、尾も 1分ほど伸び

ており、来年春が楽しみな姿です。今日使う予定だったメイヒルの T4 は、結露でどうしようもない画像で、1コマ撮影途中でキャンセル。また、T5 も昨日と同様ノイジーです。ダークを取り直しても、なぜか酷いダークノイズがとれません」とのコメントと画像(写真 a)および位置観測の報告があった。

### ○ 6月に発見・検出された他の彗星

☆ C/2012 L3 (LINEAR) 6月 10.31日 UT、LINEAR サーベイによって 18.5 等の外見上の小惑星状天体が発見された。小惑星センターの NEOCP webpage に公表後、L. Elenin (Lyubertsy, ロシア、0.45-m f/2.8 望遠鏡、ISON-NM Observatory Mayhill 近郊、ニューメキシコ州、遠隔操作; 6月 11.32日 UT、丸く拡散した FWHM 約 11" のコマと p. a. 180° に約 25" の広く短い尾が見える)ら位置観測者によって彗星状として観測された。(CBET 3137, 2012 June 11)。

☆ P/2004 H3 = 2012 L4 (Larsen) 6月 15日、Krisztian Sarneczky (ハンガリー)は、Konkoly 天文台、Piszkesteto 観測所の 0.60-mSchmidt 望遠鏡で得た CCD 画像から 19.7 等の P/2004 H3 (Larsen)を検出した。6月 15.92日 UT に得たスタック画像では、この天体は、4" のコマ (近くの恒星の FWHM は 2".7) と p. a. およそ 250° に 8"~10" の扇型の尾が見えた。6月 16.91日 UT に得たスタック確認画像には 4" のコマが見えた。G. V. Williams が得た連結軌道は、2011/2012 ICQ Comet Handbook の中野圭一氏の予報に対し、Delta(T)は、-1.36 day であった (CBET 3144,

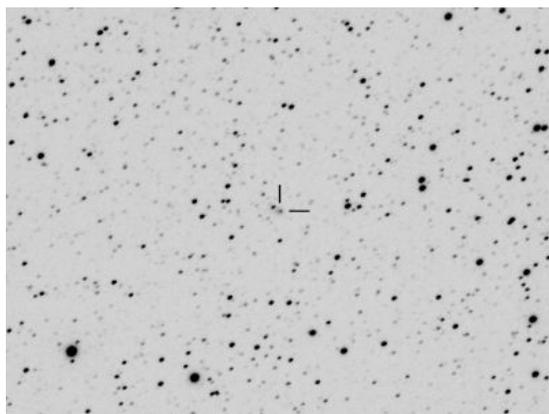
2012 June 16)。

明るい彗星は、C/2010 S1 (LINEAR) (写真 b)、C/2006 S3 (LONEOS) (写真 c)、C/2011 F1

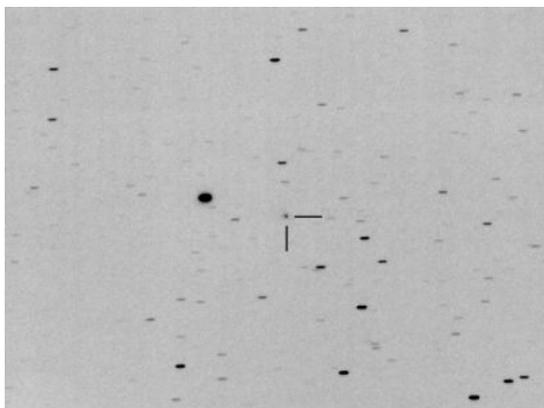
(LINEAR) (写真 d)、C/2012 J1 (Catalina)、246P/NEAT、29P/Schwassmann-Wachmann 等であった。



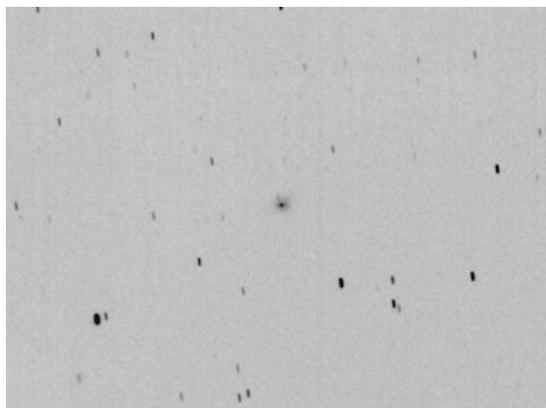
(写真 a) C/2011 L4 (PANSTARRS)  
2012, 06, 25 13h26.9m-43.6m (JST)  
exp. 120s×6  $\epsilon$ -250 astrograph + CCD  
宮城県大崎市, 遊佐徹氏



(写真 b) C/2010 S1 (LINEAR)  
2012, 06, 29 02h55.0m-03h13.3m (JST)  
exp. 60s×14 TOA130 + CCD  
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 c) C/2006 S3 (LONEOS)  
2012, 06, 29 22h10.0m-31.4m (JST)  
exp. 60s×14 TOA130 + CCD  
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 d) C/2011 F1 (LINEAR)  
2012, 06, 29 00h50.0m-01h08.3m (JST)  
exp. 60s×14 TOA130 + CCD  
三重県伊賀市上野 田中利彦氏